

あなたとともに考える「くにたち」のこれから

市民と市長の対話の会 実施報告書（令和 8 年度 第 2 回）

1. テーマ

高齢者施策と健幸で過ごせるまちづくりについて

2. 日時

令和 8 年 7 月 10 日（金）午前 10 時～

3. 場所

国立市役所 会議室棟 ぶなのへや

4. 参加者数

15 名

5. 内容

市長より挨拶を行い、高齢者ケアと健幸で過ごせるまちづくりについて、施策の方向性の説明をした後、市民と市長の対話を行った。

6. 対話の内容（主な意見等）

（1）高齢者の社会参加と地域活動について

- 定年退職して地域にいる時間が増えた方を対象に、概ね 65 歳を一つの節目として、地域デビューを応援するような施策を実施してはどうか。
- 地域活動の「見本市」のようなイベントを拡充し、年に数回実施して広く市民にアピールしてほしい。社会参加は一人ではハードルが高いため、つなぐ仕組みが必要だ。

○地域コミュニティでの活動が継続できるよう、人手・資金・場所などの面から市に形として支援してほしい。

○ シニアカレッジや福祉サポーターなどを受講しているが、活躍の場が少ない。アクティブシニアが市の事業を担えるシステムや、若い人に手伝ってもらったらポイントが貯まるような制度を作してほしい。

○ 生きがいづくりも大切である。誰でも参加できるサークルや団体の情報を広く周知してほしい。

○ 認知症予防のためにも友人が大事であり、色々なことを教え合える場づくりを推進してほしい。

（２）高齢者の生活支援・介護予防について

○ 独居でも最期まで自宅で暮らしたいという希望を叶えるため、退院時のサポートやケア体制を充実させるべき。同世代でサポートに回れる人も増やしたい。

○ 高齢者の独居訪問について、85 歳以上からではなく、80 歳代から実施してはどうか。

○ ふれあい牛乳は安否確認の要素が強く、市に見守られているという安心感があるため廃止しないで継続してほしい。また、介護保険運営協議会の検討部会だけでなく、市民の意見を広く聞く場を設けてほしい。

○ 介護予防について、義務的ではなく本質的なところを目指し、もっと進歩的・外向きにやってほしい。フレイル予防の周知をさらにお願いしたい。

○ サロンドデイホーム事業について、付き添い可能にできないか。

（３）道路・交通・住環境について

- 緑内障で段差が見えにくく、夕方に歩道の段差で転倒した。蓄光テープを貼るなど、境目を分かりやすく安全にしてほしい。
- 自宅近くの水道工事による歩道が凸凹で歩きにくい。工事の状況をしっかり確認・公開してほしい。
- 甲州街道より南は交通網が不便で、自転車に乗れない高齢者は外出しなくなる。コミュニティバス等の交通網を整備してほしい。
- 谷保駅周辺の狹隘道路や、下谷保の道路環境が危険。歩道の狭さや段差を改善し、広い歩道は高齢者の自転車が走れるようにしてほしい。
- 中央線高架下の歩道を整備し、日陰を作る工夫や店舗・ギャラリーを入れるなど、活性化して町が生き生きするようにしてほしい。

（４）公共施設の整備と活用について

- 東福祉館や北福祉館・立東福祉館について、目的がなくてもふらっと立ち寄り、気軽に話せるような居場所としての活用方法を検討してほしい。普段鍵がかかっていたり、予約に電話連絡が必須だったりするため、ふらっと入れる仕組みをお願いしたい。
- 中央図書館の老朽化やバリアフリーが心配である。学園都市を謳うには物足りなく、複合施設として駅近や一橋大学の近くなどに新設・充実させてほしい。
- 公共施設にある AED について、使い方が分からないため、定期的な講習会などを実施してほしい。

（５）情報発信・ICT 活用について

- 物価高騰対策の 3,000 円のギフトカードや東京都のアプリについて、使い方が分からない高齢者が多い。きめ細かな対応や周知をお願いしたい。
- スマートフォンや AI の活用の仕方が分からないため、定期的に何度も学べる講座を開催してほしい。
- 市報の表紙が良くなっているが、まちづくり等の情報アピールがまだ足りていないと感じる。市、市民、職員が力を合わせるためにも、更なる情報周知に取り組んでほしい。

（６）市の財政・まちづくり全般について

- 国立市の財政問題を懸念している。歳入を増やすために、大企業や設計事務所などの企業誘致を積極的に図って市の発展に繋げてほしい。
- 市政の変化や国立のブランド・魅力を「くにたちから世界へ」もっと外に向けて見える化し、発信していくべき。海外や他自治体の事例も学んでほしい。
- 谷保のハケ下において、畑や田んぼが潰され家が乱立している。スプロール化を規制して農地を残してほしい。



▲対話の様子